



歴史・文化

戦国時代、春日山城を居城とした上杉謙信公のお膝元であったこの地域は、奈良時代から越後国府が置かれ、越後国の政治・経済・文化の中心として発展してきた土地でもあります。江戸時代には徳川家康の六男・松平忠輝公を初代城主として高田の地に高田城が築かれ、越後一國と北信四郡を治める中心となり、北前船の寄港地であった直江津は、高田藩の海

桜

越後の春の風物詩として有名な高田城址公園の桜は、明治42（一九〇九）年に旧陸軍第十三師団の高田入城を記念し、在郷軍人会によって二二〇〇本の桜が植えられたのが始まりです。現在は公園とその周辺を含め約四〇〇〇本の桜が咲き誇り、目没とともに約三〇〇〇個のぼんぼりに照らし出され、ライトアップされた高田城三重櫓とともにお堀の水面に映るさまは、「日本三大夜桜」の一つに数えられています。

の玄関口として大いに栄えました。その後、明治政府による地方行政の再編により地域は細分化されましたが、昭和46（一九七二）年、地域の拠点性を高めることを目指し高田市と直江津市が合併して上越市が誕生し、平成17（二〇〇五）年には当時全国最多の14市町村による合併によって、地域は再び一つになりました。